

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は104円台を中心とするもみ合いか

[11月30日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		11月23日～11月27日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	103.86	104.76(24)	103.69(23)	103.98	+0.12
ユーロ・ドル	1.1856	1.1941(26)	1.1800(23)	1.1927	+0.0070
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	26,644.71	+1117.34	日本10年債利回り	0.031	+0.019
ダウ平均株価	29,872.47	+608.99	米10年債利回り	0.882	+0.028
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 30日 日本10月鉱工業生産指数、日本10月小売業販売額
中国11月製造業購買担当景気指数
スイス10月小売売上高
スイス11月KOF先行指数
独11月消費者物価指数
カナダ第3四半期経常収支、カナダ10月鉱工業製品価格
米11月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 日本10月雇用統計、日本10月有効求人倍率
豪第3四半期経常収支、豪10月住宅建設許可件数
中国11月財新製造業購買担当景気指数
豪中銀(RBA)政策金利
スイス第3四半期国内総生産(GDP)
独11月雇用統計
ユーロ圏11月消費者物価指数
米11月ISM製造業景況指数、米10月建設支出
- 2日 豪第3四半期国内総生産(GDP)
スイス11月消費者物価指数
ユーロ圏10月生産者物価指数、ユーロ圏10月雇用統計
米11月ADP雇用統計
米地区連銀経済報告(ページブック)
- 3日 豪10月貿易収支
ユーロ圏10月小売売上高指数
米新規失業保険申請件数
米11月ISM非製造業景況指数
- 4日 豪10月小売売上高
独10月製造業受注指数
カナダ11月雇用統計、カナダ10月貿易収支
米11月雇用統計、米10月貿易収支
米10月製造業受注

【前回のレビュー】ドル円は上値の重い展開が続いている。ワクチンが普及するには時間がかかり、米連邦準備制度理事会(FRB)が一段の緩和策に動く可能性も高いとみられ、ドル円は戻したところでは売りに押されやすい展開が続くことになるとした。

【NYダウは史上初の3万ドル乗せ】

米国の製薬大手ファイザーが独ビオンテックと共同で開発している新型コロナウイルス

スのワクチンは、米食品医薬品局（FDA）に緊急使用許可を申請しており、早ければ年内にもワクチンが使用可能となる。米製薬会社のモデルナのワクチンの近々米食品医薬品局（FDA）に緊急使用許可を申請する見通しとなっている。

さらに23日に英製薬大手アストラゼネカのワクチンも有効性を示したとの発表があった。複数の企業から新型コロナウイルスに有効とされるワクチン開発の発表があり、実用化へ向けて前進しているとみられることで、欧米の株高の要因となっている。

こうした中、24日の米国株式市場でNYダウは454ドル高となり、史上初の3万ドル台乗せとなった。ワクチン開発や実用化へ向けての進展への期待感に加えて、バイデン次期大統領への政権移行が順調に進展するとの見通しも株価を支えた。さらに新政権での財務長官に前米連邦準備制度理事会（FRB）議長のイエレン氏が就任すると報道も株高を支えた。

3万ドル乗せの後のNYダウは上げ一服となっているものの、リスク選好ムードの高まりからドル売りの動きが続いている。ドルインデックスは今日12日に93台前半だったものの、91台後半まで下落している。ユーロドルは23日に一時1.18ドルを割り込んだ後、1.19台前半まで上昇している。

ドル円は23日に103.69近辺まで下落したものの、この日発表された11月の米製造業とサービス業の購買担当者景気指数（PMI）がいずれも事前予想や前回を上回ったことで、米国の景気鈍化への警戒感が後退して、ドル買い円売りにつながった。104.64付近まで上昇すると、その後は104円台を中心にやや上値重く推移している。

25日（日本時間の26日午前4時）、米連邦準備制度理事会（FRB）は11月4～5日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨を公開した。これによると、FOMCメンバーの多くが資産の買い入れ策の強化が必要になるとの認識を示し、次回12月の会合で量的緩和策の拡充を検討する方針を示した。

ドル円は27日に104円を割り込むなど上値の重い動きとなっている。FRBは一段の緩和策を打ち出す可能性が高く、ドルは売られやすい地合いが継続しそうだ。新型コロナウイルスの感染拡大は円買いにつながりやすい。ただ、104円割れでは買いに支えられやすい展開が見込まれる。ドル円は104台を中心とするもみ合いが続くとみられる。米経済指標の改善によっては105円台に乗せる可能性はあるものの、そこから上値を伸ばすのは難しそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、103.50～105.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、30日に日本10月鉱工業生産指数、日本10月小売業販売額、米11月シカゴ購買部協会景気指数、1日に日本10月雇用統計、日本10月有効求人倍率、米11月ISM製造業景況指数、米10月建設支出、2日に米11月ADP雇用統計、米地区連銀経済報告（ページブック）、3日に米新規失業保険申請件数、米11月ISM非製造業景況指数、4日に米11月雇用統計、米10月貿易収支、米10月製造業受注などがある。

【ドル売りを受けてユーロドルは堅調地合い】

23日にユーロドルは上下に大きく振幅したものの、その後はドル売りの流れを受けて1.19台前半まで上昇してきている。欧州中央銀行（ECB）は12月の理事会で追加緩和に動くと思われるが、その材料はいったん織り込まれて、このところはドル売りの動きが優勢となっている。

もっともユーロドルは一段と大きく上昇する材料には乏しく、ドル売りの動きだけでなくさらに上値を追うのは難しいとみられる。1.2000ドルに接近すると上値を抑えられて、下げに転じる展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1750～1.2000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日に中国11月製造業購買担当者景気指数、スイス10月小売売上高、スイス11月KOF先行指数、独11月消費者物価指

数、カナダ第3四半期経常収支、カナダ10月鉱工業製品価格、1日に豪第3四半期経常収支、豪10月住宅建設許可件数、中国11月財新製造業購買担当景気指数、豪中銀（RBA）政策金利、スイス第3四半期国内総生産（GDP）、独11月雇用統計、ユーロ圏11月消費者物価指数、2日に豪第3四半期国内総生産（GDP）、スイス11月消費者物価指数、ユーロ圏10月生産者物価指数、ユーロ圏10月雇用統計、3日に豪10月貿易収支、ユーロ圏10月小売売上高指数、4日に豪10月小売売上高、独10月製造業受注指数、カナダ11月雇用統計、カナダ10月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。